

三田社会学会 2018 年度大会プログラム

日時：7月7日（土） 12：50～18：00

会場：慶應義塾大学三田キャンパス 北館3階大会議室

受付：12：00より（大会参加費はございません。受付にて本年度会費を申し受けます。）

共催：三田哲学会

■総会 12：50～13：00

■自由報告 13：00～14：40（報告15分 質疑応答10分）

司会：有末賢（亜細亜大学）

報告者：

13:00-13:25 王曉音（慶應義塾大学大学院社会学研究科）

「滞日中国人のトランスナショナリズム—高学歴人材の移動と移住—」

13:25-13:50 中村香住（慶應義塾大学大学院社会学研究科）

「新しい時代の「性の商品化」論に向けて」

13:50-14:15 阪本博志（宮崎公立大学人文学部）

「大宅壮一とそのルポルタージュに関する考察」

14:15-14:40 寺田好秀（公益財団法人東京財団政策研究所）

「理系出身者と文系出身者間の健康格差—Blinder-Oaxaca 分解法による要因分解—」

■休憩 14：40～15：00

■シンポジウム 「文学社会学」の可能性 15：00～18：00

司会：鈴木智之（法政大学）

報告者：

清水学（神戸女学院大学）

「蔵書を整理する—「社会の詩学」の立場から—」

松下優一（神奈川工科大学他）

「カルチュラルスタディーズか、文学社会学か—「〈沖縄文学〉の社会学」を振り返って—」

マルクス・ヨッホ（Markus Joch）（慶應義塾大学）

“How to gain symbolic capital by provocation and internationalization :

Hans Magnus Enzensberger as an example”

討論者：小倉孝誠（慶應義塾大学）

近森高明（慶應義塾大学）

懇親会・・18：30～20：30

会場：大連

会費：一般会員 5,000円、院生会員 3,000円（当日受付で申し受けます。）